

## 都市景観賞選考総評

選考委員会委員長 関 哲 洋



姫路市は昭和62年に都市景観条例を施行し、市民にとってかけがえのない共有財産である都市景観の形成に努めてまいりました。その施策の1つとして、3年ごとに実施してきました姫路市都市景観賞ですが、今回で10回目となり、前身の建築文化賞を含めると、合計48点の表彰がありました。これらの建築物等が姫路市の美しい景観を示すシンボルとして親しまれ、市民や事業者の都市景観形成への関心を高めてきたと考えています。

今回は、前回と同様に、建築物及びまちなみ形成という分野で募集を行いました。その結果、建築物からは48点、まちなみからは2点の計50点の応募、推薦がありました。これらの中から募集要件等を勘案し、写真による予備選考、それから現地調査を行い、最終的には選考委員の総意により都市景観賞2点、特別賞3点を選考しました。

建築物の分野で都市景観賞に選考されました、兵庫県信用農業協同組合連合会姫路支店は、駅南大路の都市景観形成地区に建てられ、周辺の建物との調和や、壁面の細やかなデザインに加えて、ひさしを利用した太陽光発電パネルの設置や緑化など環境配慮などの取り組みが高く評価されました。

それから、まちなみ形成の分野については、まちなみとともに形成されたコミュニティ活

動が中心になります。今回、都市景観賞に選考されました野里街道は、世界文化遺産姫路城のバッファゾーンに位置し、沿道住民を中心として組織された野里まちづくりの会が、歴史的なまちなみを生かしたイベントや情報提供などの活動を盛んに行なっています。こうしたにぎわいの創出や積極的な景観まちづくりに資する住民活動が野里街道を中心に展開されていることが高く評価されました。

今回はそのほかに3点の都市景観賞特別賞を選考しました。応募された中から景観形成においてすぐれた建築物として選考委員会より特別に評価されたものです。

まず、安積精肉店は、黒を基調とした重厚な外観と和風イメージのデザインなどが評価されました。

また、サンショウレザーパビリオンは、建物全体の造形的な存在感やダイナミックなデザインが評価されました。

姫路ターミナルスクエアは、ターミナル空間を特徴づけ、落ちつきのあるデザインなどが評価されました。

いずれも都市景観の形成という視点から、その場に新鮮な景観を生み出しているということが評価されました。

最後になりましたが、播磨地域の中核都市であり、世界文化遺産姫路城を有する姫路市は、これにふさわしい景観の形成と保全を推進していかなければなりません。今回応募された皆さまに感謝するとともに、この都市景観賞が市民や事業者の皆さまにより刺激となって、今後一層愛着、親しみ、誇りを感じる美しいまちの実現に寄与していくことを願っています。